

奈良県高市郡高取町清水谷方言のアスペクト

中井 精一

I、はじめに

(1) 調査対象地：高取町市清水谷は奈良盆地の南端にあつて、古くから西国33カ所か観音霊場6番札所壺阪山南法華寺（通称壺阪寺）の門前町として、また植村藩2万5000石の城下町として栄えるとともに、富山とならぶ大和ぐすり（売菜）の里でもある。

現在、清水谷は200戸、約700人が暮らしている。

(2) 調査年月日時：1994年1月15日午後1～3時15分

(3) 話者：日浦政治 大正4年7月4日生（79歳）無職

(4) 調査者・調査場所：中井精一、話者宅

(5) 調査方法・調査時の状況：調査者ならびに被調査者が共に奈良県方言のネイティブスピーカーであり、親しい間柄であることも手伝って和やかな雰囲気、精度の高い調査が行なえたと考える。

(6) 表記方法：調査では出来るだけ質問文に留意し、文末詞を含めた回答を求めたが、必ずしも全ての回答において該当文末助詞を伴う回答を得ることは、調査進行上不可能であったため、この箇所に関しては該当する助詞を追補し（ ）で表記するものとする。また、調査時におけるインフォーマントのコメントは「」に記載した。

II、調査結果

1、（昔は）よく行ったものだね ①「イ」ッタナ「ー ②「イ」タモ「ンヤ「ナ「ー

2、（あのころは）おもしろかったなあ ①「オモシロ」カッタナ「ー

「これは共通語とえろう変わらんない」

3、（もうちょっとで）落ちるところだった ①オチル「ト」コヤッタ「ナ「ー

「オッチョルトコヤッタナーとは言わない」

4、（今にも）落ちそうだよ ①オチ「ソ」ウニナット「ル（デ）

「おせてもらうのか、なおすのかによって違うで」

5、（財布を）落として ①「オトシテシ」モテ

6、困っている ①「コマッテル（ネン）、②「コマ」ットル

①のネンはノダにあたる。①と②では②の方がより男性的用法であると考えられる。また、この場面では『困る』よりは『弱る』のほうが日常的であつて、ヨワッテルあるいはヨワットルの方が意味的には妥当であろう。

7、(一本の蠟燭が今にも) 消えそうだよ ①「キエ」ヨルガ」ナ

ここでは文末にガナが付加されているが、
厳密には相手をたしなめたり啓発する場合
に用いるガナではなく、単なる呼びかけな
らば、デが妥当であろう。

8、(今にも) 消えようとする ①「キエ」ヨル

9、(完全に) 消えた ①「キ」エタ

10、(すでに) 消えていたよ ①「キエ」トル

「キエヨルはまだ火が付いとる。キエトルはもう火が消え
てしてもんや。」質問文から言えばキエトツタデが適
当か。

11、(何本もの蠟燭が順に) 消え始めた ①「キエテ」ツタ ②「キエテキ」タ

12、(何本もの蠟燭が次々) 消えていくなあ ①「キエテ」ツタ (ナー)

13、(何本もの蠟燭が順に) 消えているよ ①「ボ」ツポツキエテ」ツタ (デ)

14、(何本もの蠟燭が全部) 消えているよ ①「キエテシ」モタ (デ)

キエテシモトルデの使用も耳にしたことが
ある。また、女性はキエタルデを用いる場
合が多いとの情報もある。

15、(何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ ①「ケヤシト」ル

この質問文に対してはケヤシテクレタ
ハルという待遇表現で用いるハルが付
加されることが多い。これとは逆に子
供がいたずらで火を消している場合は
①のようになることが多い。ニュート
ラルな形式は男性は①に近く、女性は
ハルを伴う方に多いように観察され
る。

16、(もう全部) 消しているか ①「キエ」トルカ

人が主語ならば ①あるいはケシタルカ、ケシトルカと
いうふうにあスペクト以外に待遇表現上の差異が表出
する。

17、(今にも桜が) 散りそうだ ①「チリ」ヨル

18、(ちらほらと) 散り始めた ①「チリダシ」タ、②「チリハジ」メタ

19、(今現に) 散っている ①「チリダシ」タ、②「チ」ツトル

インフォーマントの視点で言えば設問18と設問19の間には

差異がない。「桜が散って惜しい」という気持ちがこのインフォーマントにはまずあってこれに関するコメントが多数あり。

20、(桜の木がすっかり)散っている ①「チッテシ」モタ

ここでも桜それ自体に視点があってそれを惜しむ気持ちからか「もうしまいや」といった回答が多数あり。

21、(地面一面に)散っている ①「チ」ツタル

22、今にも降りそうだ ①フッテ「キ」ヨル、②フリ「ソ」ーナ

設問そのものの形式にこだわるならばフリソウヤが適当かもしれないが、将然を考えるのならば ①が適当であろう。

23、(あの時には今にも雨が)降りそうだった ①フル「ミ」タイヤツタ

24、(あの時はもう実際に雨が)降っていたよ ①フツ「ト」ツタガナ

25、(あの時はやがて夜が)明けようとしていたよ ①「アコナツテキ」タ(デ)

インフォーマントの感覚では夜が明けるとするのは「鶏が鳴き出した」とか「夜が白み出した」というのが最もふさわしい表現で「明ける」という言葉がなかなかでなかった。

26、(来年の今ごろは家を)建てている ①タテテル「サ」カイニ

27、(来年の今ごろは家をすでに)建てている ①タツ「ト」ルサ「カイニ

設問26・27のアンダーラインは「ので」に該当。

28、(あの家はよく)磨いてある ①「ミガイ」タル

29、(隣の犬が)鳴いている ①「ナイ」トル、②「ナ」ッキヨル

女性の場合であれば主にナイトルを用い待遇表現の関係オル系のナイトルは余り用いない。また、このインフォーマントの回答②は犬が鳴く事で煩わしい気持ちを表現するもので待遇表現的色彩が濃い。

30、(隣の子が)泣いている ①「ナイ」トル

ここでも女性ならばナイトルを用い、人間が泣いている場合にオル系を用いない。インフォーマントに ①以外の回答を求めたところナイタハル、ナイトタル、ナイトルなど、この地域の待遇表現法に関わる補助動詞を伴う形式で追加された。

- 31、(子どもたちが) 喧嘩している ①「ケンカシト」ル
 主語が子供で、喧嘩をしている状況であるため男性の回答の場合はおおむねこの形式が妥当。ただし、女性ならばケンカシテルあるいは待遇を伴ってケンカシテタルとなる。
- 32、(家に) いるかなあ ①「オ」ルヤロ「カ
 女性ならばイテルヤロカ、あるいは待遇がらみでイテタルヤロカ、イタハルヤロカが回答される。
- 33、(〇〇さん) いるか ①「オ」ル「カ
 女性ならばイテルー、イタハルが使用される。特に相手に向かってオルを用いるようなことはない(男性でも相手に向かって直接オルを用いることは減少してきている)。
- 34、(ああ) いるよ ①「オ」ル「ゾー
 女性ならばイテルデー。
- 35、(そういう人も) いるよ ①「オ」ルナ「ー、②「オ」リヤロナ「ー
 設問から、感情移入の少ない状況設定であると判断される。従って女性ならばイテンナーあるいはイタハンナーとなる。(感情移入が伴えばイテタルナーも回答される可能性あり。)
- 36、(あなたは今何を) していたか ①「シテ」タンディ「、②「シト」ッタディ「
- 37、(私は今金魚を) 見ていたよ ①「ミテ」テン、②「ミテ」タ
- 38、(金魚が今にも) 死にそうだ ①「シニ」ヨルワ
 主語が金魚であるということ「死」というマイナスのイメージ + 将然 → ヨルで妥当、ただし、女性ならば、シニソウヤ。
- 39、(やっぱり金魚は) 死んでいたよ ①「シン」ドッタ
 女性ならシンデルであろう。
- 40、読み始めていた ①ヨミカケ「テ」タ
- 41、読み始めたところへ(～た) ①ヨミカケ「ト」ッタ
- 42、着くと同時に～した ①ツ「ク」ナリ
- 43、着くと同時に～してくれ ①ツイ「タ」ラス「グ
- 44、鳴りつづけている ①「ナリツツケト」ル
- 45、(先生は今何を) しているか ①「シタハリマン」ノ
 主語が先生などの目上の人でなければシテンノ・シテタルノ・シトルノなども回答となろう。

- 46、好きだ ①「スッキ」ヤ
- 47、見られているのも ①「ミラレテン」ノ
- 48、(今、運動会が) ある ①「シト」ル、②マツ「サ」イチュー
「ある」というのは「している」というふうにインフオーマントが意識しているために ①のような回答になった。
- 49、(降らなくて) よかったよ ①「ヨ」カッタ
- 50、(先生がこっちへ) 来つつある ①「キャハル」
「先生が来た」→キャハッタ、「先生が来ている」→キタハル、「先生が来ていた」→キタハッタとなる。
- 51、(犬がこっちへ) 来つつある ①「キ」ヨル
「犬がキタ」→キヨッタ・コッタ、「犬が来ている」→キトル、「犬が来ていた」→キトッタとなる。
- 52、似ている ①「ニテル」
第三者を主語とするならばニトルあるいはニタハル・ニテタル
- 53、(一週間も前から遊びに) 来ている ①「キテ」タル、②「キト」ル
①はこの地域独自の待遇表現形式でる。
- 54、(昔から) 苦労していない ①「ク」ロウシト「ラヘン
- 55、(今はあまり) 苦労しない ①「ク」ロウシト「ラヘン
設問54・55のいとこをどのように認知するかによつて、トルの部分がハル・タルに変更される。
- 56、～売っているが、～売っていない ①「ウ」ツトルケ「ド、②「ウツト」ラン
- 57、(昔かたタバコを) 売っている ①「ウ」ツトル
- 58、(今、お売り出して衣料品を) 売っている ①「ウ」ツトル
- 59、(もう三回) 来ている ①「キ」タ、②「キテル
- 60、(いつも) 来ている ①「キテル、②「キト」ル
- 61、(昔はいつも) 来ていた ①「キ」トッタ
設問59・60・61は主語が「私」であるため設問51とは異なった回答となった。
- 62、(前に一度) 行っている ①「イ」タ、②「イ」ッタコ「トアル
- 63、先に行っておいてほしい ①「イテク」レ
- 64、待っていないさい ①マツ「ト」レ
- 65、(外に) 待たせてあるよ ①「マタシ」タンネ
- 66、食べておいておくれ ①タベトイテ「ク」レ、②タ「ベ」ヨ
- 67、(昔と) 違っている ①「チゴ」トル

- 68、(昔は今のと) 違っていた ①「チゴ」トッタ
 69、(毎日梅干しを) 食べている ①「タベテ」ン」ネ
 70、(毎朝) している ①「シト」ル

設問36と主語が異なるためこのような回答となった。

- 71、気をつけていて (~した) ①「キー」ツケテ
 72、行ったまま~ ①「イ」ッタ「キリ
 73、~しながら ①「シ」モッテ
 74、~の途中で~する ①「イキシナニ、②「イクド」ーチュー
 75、~の途中で~した ①「イキシナニ
 76、~の途中で止めて~した ①ヨミ「カ」ケテ
 77、~したばかりだ ①ヨンダ「ト」コヤ、②ヨンダバツ「カ」リヤ
 78、無くなっている ①「ノーナ」ッタ、②「ナクナ」ッタ
 79、無くなるぞ ①「ノーナッテシマウ」ゾ
 80、掛けておいた帽子 ①カケ「ト」イタ
 81、並んだ本 ①「ナラン」ダル
 82、並べた本 ①「ナラベ」タル
 83、~しておこうか ①ヨンドコカ「ナ」ー
 84、やっであるか ①「ヤ」ツタカ
 85、壊している ①「コワシ」ヨル
 86、壊れている ①「コワシテシマイ」ヨル、②「コワシテシマイ」ヨッタ
 87、壊されている ①「コワシテシモ」タル
 88、のけてある ①「ナオシテシモ」タル、②「ナオシ」タル
 89、書き終わった ①カイテ「シ」モタ
 90、書いてしまいなさい ①カイテ「シ」マエ、②カイテ「シマイナ」ハイ
 91、書いてしまう ①カイテ「シマウ
 92、書いてみた ①カイ「タ
 93、(孫は今) 入院している ①「シト」ル
 94、(弟も今) 入院しているそうだ ①「シテルラシ」イ、②「シトルラシ」イ、
 ③「シト」ンニヤ
 95、(きっと) よくなるよ ①「ヨーナル
 96、(だんだん) よくなるよ ①「ヨーナル
 97、歳とるとね ①トツ「タ」ラ「ナ」ー
 98、なおらなくなるよ ①「ナオランヨ」ニナル

- 99、(1) (犬が) 怪我したので ①「ケ」ガシ「ヨッタ」
 (2) (子供が) 怪我したので ①「ケ」ガシ「ヨッタ」
 (3) (お父さんが) 怪我したので ①「ケ」ガ「シャハ」ッタ
 (4) (雨が) 降ってきたので ①フッテ「キ」タンデ
- 100、(1)B 今、ぼつぼつ降りはじめた
 (2)B すでに現にどんどん増えている
 (3)B 増やそうとして少し貯金をし始めた

Ⅲ、総括(まとめ)

奈良県方言のアスペクト研究は西宮一民氏による記述研究によって、ほぼその全容は明らかにされている。したがって今回の調査・報告においても西宮氏の報告にそった形で、特筆すべきことはあまり多くない。しかしながら近年、関西中央部をフィールドにした待遇表現形式の研究においてその表現に伴なう補助動詞等をめぐって、アスペクト形式との関連が指摘され、俄かにこの分野の研究に対する関心が高まってきている現状にあつて、このような体系的な調査・報告は、この分野の研究を進める上で、必ずや相応の貢献するものと思われてならない。筆者自身、今回の調査を通じ待遇表現とアスペクトとの関わりについて考えさせられる点が多々存在した。今後は微細事項に目を奪われることのないよう細心の注意を払い、地域言語社会の言語体系そのものの把握に努めたく思う。

(参考文献)

- 井上文子(1993) 関西中央部における「オル」・「トル」軽卑のメカニズム『阪大日本語研究』5
 岸江信介(1990) 「昭和」における大阪市方言の動態『国語学』163
 中井精一(1988) 奈良盆地における待遇表現形式の分布について『地域言語』1
 中井精一(1992) 関西共通語化の現状『阪大日本語研究』4
 西宮一民(1962) 奈良県方言『近畿方言の総合的研究』
 宮治弘明(1990) 近畿中央部における人を主語とする存在表現の使い分けについて『阪大日本語研究』2

(なかい せいいち 天理大学附属博物館)